
教育総合センター だより

NO. 105

平成19. 9. 1

1枚の研究案内状から 思うこと



尼崎市立立花北小学校
校長 山本 義男

ここ数年は、夏季休業中の先生方が教育総合センターの研修をはじめ、様々な研修会に自分の力量アップのため研修に励んでおられます。1学期末には、研修案内が多数学校に届いています。その様な中、今年は市内のある小学校から校内研究参加へのお誘いの案内をいただきました。時期は8月下旬とのこと、講師を招聘しての校内研究に、他校の先生の参加を呼びかけていただきました。

殆ど例のない他校の校内研究会へ本校の先生が参加すると聞き、25年ほど前のことを思い出しました。当時勤務していた園田北小学校の校内研究（当時、創立以来放送教育を続けていた）に、ある時2人の先生が参加されていたのです。勿論、市内の先生でした。ただ参加して校内研究の様子や雰囲気をお聞きになっているのではなく、放送教育についての疑問点や“待ちの姿勢”の考え等に数多く質問され、かえって校内研究の質を向上させていただきました。

私は、本当に大変驚いてしまいました。市内の教科研究会では、他校の先生方と研究協議をした経験はあるのですが、自分の勤務校に他校の先生が参加しての研究が初めてだったのです。それに、あまり気後れもなさらず、ご自分の実践の中から放送教育（テレビ視聴）に対する疑問や放送教育の弱さ等、的確な指摘をされていました。私には到底真似のできないことでした。

きっと、両先生は、それぞれ学校での校内研究を基にした視点を持って参加され、研究協議を深められたのだと思うのです。同じ校種の小学校でさえ、それぞれの小学校で取り組まれている校内研究については、研究発表大会でなければ研究授業を参観し、後の研究協議に参加することはできません。

尼崎市には、素晴らしい学級経営をされる先生、深い教材研究をされ子ども達に驚きや感動を与えられ、日々実践を積み重ねている先生方が大勢おられます。これらの先生方の教育方法や実践を取り入れる努力が必要と思えてなりません。その為には、もっと教えを請いに出かけなければならないのではないのでしょうか。そして、良いところを自分の学級や学年、或いは学校にどしどし取り入れ、尼崎の子ども達を変えていく必要があります。

身近な近隣の幼稚園・小学校・中学校のオープンスクールの授業参観をし、また、それぞれの学校園が、学校行事や日常的な幼小中の交流連携から、計画的な幼小中の連携へと取り組んでいくことを強く思うところです。

学校間の研究交流をもっと発信し、市内に一つでも多く交流・連携校が増え、校種の違った先生方が自分の教えた子ども達の先を見据えた教育実践を押し進めることで、尼崎の子ども達のパワーアップの原動力になると思えるのです。

☆☆☆☆☆ 初任者研修を振り返って ☆☆☆☆☆

－尼崎養護学校体験学習－

本市では、初任者研修の一環として毎年「尼崎養護学校体験学習」を実施しています。

今年は、個々の先生方が少しでも多くの児童生徒とのふれ合いができるようにという観点から研修日を二回に分け、具体的な教育実践活動を体験しました。

1 研修のねらい

- ・養護学校の体験学習を通して、障害のある児童生徒の心情や教育活動について理解を深める。

- ・教員としての自覚を促し、教育課題を実践的に学びスキルアップを図る。

2 研修プログラム

- ・児童生徒の登下校出迎え、見送り
- ・学校概要についての説明
- ・教室での学習活動の見学、体験等
- ・給食指導の見学

3 研修の視点

普通学級と違って、言語によるコミュニケーションが非常に困難な児童生徒も多くいます。しかし、教育課程における自立活動の5つの分野では、身体の動き、コミュニケーションの2項目が授業に占める割合が大きいのです。では、養護学校の教職員の方々はどのように児童生徒とのコミュニケーションを培っているのでしょうか。この部分をしっかり見極めることが研修の視点と言えます。「児童生徒は、大人の顔をよく見えていますよ。」「目線を下げて同じ高さで接してください。」と話された教頭先生の言葉が強く印象に残っています。

4 研修を終えて

研修後に書かれた感想には、初任者の先生方の思いが強く綴られていました。

- ・「子ども達がとても純粋で、嬉しい時や楽

しい時に見せる笑顔が印象的でした。」

- ・「先生方が、常に子どものために第一に考えて動いておられ、また、協力体制がしっかりできていたことに大変驚きました。」

- ・「言葉はなくても、小さな動きや表情で自分の気持ちを伝えようとしているのがよくわかりました。」

- ・「ちょっとした生徒の表情の変化から即座に生徒の気持ちを解する。これは、生徒を細やかに見ておかなければ成せない業であり、生徒との信頼関係を形成していく上でも重要な視点であると思いました。」

- ・「私も笑顔で接する大切さを自分の教室に持って帰ります。」

- ・3日間くらい体験して、ようやく生徒とのコミュニケーションがとれるようになるかなと思うほど、言葉を使わないコミュニケーションの難しさを感じました。

- ・初めて肢体不自由の養護学校を見学でき外から見ているイメージと実際の現場での実践が違うことを実感できてよかった。一日ではなくて、もう少し長い日数があればもっと実践の様子が理解できると思った。

5 次年度にむけて

わずか一日という体験で、どこまでねらいに迫ることができるのでしょうか。朝、元気に挨拶された初任者の先生方も研修を終え帰るときにはさまざまな表情を思い浮かべていました。きっと、一人一人の受けた思いも様々だったことでしょう。来年度も多くの新採用の先生が入ってこられます。そんな中で、教育とは何か、教育の原点とは何か、そう問いかけられる研修にしたいものだと考えます。

(研修担当指導主事 藤本 吉将)

この春、私が教育相談課に勤務し始めたころ、児童小説「バッテリーVI」完結巻が文庫本で発行されました。1巻から6巻まで惹きつけられ、鈍っていた感性を少し取り戻せたことについて述べたいと思います。

1 心模様

中学校野球部。巧と豪のバッテリー。

巧、速球に絶対の自信、誰に対しても自分を貫き通そうとする。豪、巧の投げる球を必死で捕ろうとする。「本気で向かってこいよ。」「本気になれよ。」怒り、反発をぶつけあいながら関係を確認なものにしていく。

本気でぶつかりたい、本気で向き合える人に会いたい、本気でコミュニケーションしたいという人を求める気持ちと孤独であることを肯定し、自分自身である輪郭を曖昧にせず自分自身の孤独を尊びたいという孤高な気持ちが私の胸に心地よくかつ鋭く響いてきました。

2 言葉の魅力

巧と豪のものがき、あえいでいる心の動きが的確な言葉と短い文章で表現され、緊張感がみなぎりどんどん二人の世界へ引き込まれていきました。また、岡山の町の春夏秋冬の移り変わりや家にある梅の木の様子や香りなどの自然描写がはかなさとせつなさを感じさせてくれました。

巧の感情の中になかった言葉を獲得していく過程、巧の言葉への渴望、巧の本

物の言葉がほしいと焦がれるような思いから言葉には力があると私は改めて思いました。

3 現在の私

人からパワーをもらうのではなく自分からパワーを湧かす、どうすれば湧くのか、それは感じることに、私は「バッテリー」からたくさん感じる事ができ、ちょっと満ち足りた気分です。是非とも、「バッテリー」を読まれた方と語り合いたいです。初対面の枠を超えて意気投合できるでしょう。

私が新しい仕事で出会う子ども達は、苦しい表情を浮かべています。しかし、その表情の奥に、パワーを湧かしたい、いっぱい感じたい・・・希望が潜んでいるに違いありません。それを自分の言葉で本気で伝え、本気で聞いてもらえる誰かを探しています。

その子ども達に、私自身勇気づけられた著者あさのあつこさんのメッセージ「自分でないところから借りてきた他人の物語の中で生きていくのではなく、あなた自身の物語を掴んでほしい。」を、私の言葉で伝えていきます。

そして、子ども達や保護者が抱えている悩みが少しでも軽くなるよう解決に向けての働きかけとつながりを深めていきたいと思います。

(教育相談担当指導主事 荒木伸子)

教育情報コーナーへどうぞ

教育情報コーナーでは、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。教育総合センターでの研修や会議にお見えのときなど、ぜひお気軽にお立ち寄りください。また、資料の紹介やお問い合わせなどにお応えしております。担当までお声をおかけください。

(情報コーナー担当・幾田)

新刊からご紹介します

●ADHD・LD・高機能自閉症など発達障害をもつ子どもたちの理解と対応に

題 名	著(編)者	出版社
軽度発達障害のある子のライフサイクルに合わせた理解と対応	田中康雄	学習研究社
特別支援教育実践ソーシャルスキルマニュアル	上野一彦・岡田智	明治図書
教師とスクールカウンセラーのためのやさしい精神医学 ¹ -LD・広汎性発達障害・ADHD編	森 俊夫	ほんの森出版
そだてにくい子にはわけがある～感覚統合がおしえてくれたもの	木村 順	大月書店
見て分る困り感に寄り添う支援の実際	佐藤 暁	学習研究社
あると便利！特別支援教育の手作り簡単お役立ちグッズ	小橋川哲男	明治図書

●「いじめ」の炎はあつというまにひろがります、小さなうちに冷静な対処を

題 名	著(編)者	出版社
いじめを見抜き闘うノウハウ	田村治男	明治図書
教室の悪魔	山脇由貴子	ポプラ社
いじめ問題の発生・展開と今後の課題	今津孝次郎	黎明書房
いじめの授業-道徳自作資料集	大江浩光	明治図書
いじめ・暴力を乗り越える	北村文夫	教育開発研究所

●授業力・学級づくりの力アップ、ときには小さなことがおもわぬ効果をあげることも

題 名	著(編)者	出版社
あすの授業アイデア チョイ引き事典	東京学芸大学附属小金井小学校	学事出版
図解 よくわかる授業上達法	上條晴夫	学陽書房
100円グッズで学級づくり	土田雄一	図書文化
どの子も伸びるさかのぼり指導のアイデア	深沢英雄	小学館

●心の栄養に、こんな本はいかがでしょう

題 名	著(編)者	出版社
故事成句でたどる楽しい中国史	井波律子	岩波書店
世界遺産の建築を見よう	古市徹雄	岩波書店
おひさまのかげら-こどもの詩20年精選集	川崎 洋	中央公論新社
電球一個のエコロジー	ガイアプレス・プロジェクト	中央法規出版

開館時間のご案内 平日 午前9時～午後9時 (ただし、教育相談および視聴覚ライブラリーは午後5時15分までとします。) なお、次の日は取り扱いません。【土曜日・日曜日・祝日・年末年始】	発行 尼崎市立教育総合センター 尼崎市三反田町1丁目1番1号(TEL. 06-6423-3400) 発行者 神田 光 監修 尼崎市教育委員 岡本 元興
--	---